



生涯活躍のまち（日本版CCR）構想を総合戦略に盛り込んでいる三好市では、池田町内に生涯活躍のまちの運営拠点となる地域交流拠点施設《真鍋屋》が6月1日にオープンとなりました。

四国で一番広い自治体である三好市は、昨年ラフティング世界選手権が行われ、今夏にはウエイクボード世界選手権の開催が予定されています。また米大手旅行雑誌トラベル&レジャーの「2018年に訪れるべき50の旅行地」に、日本で唯一、祖谷溪が選ばれるなど、多くの話題で注目されています。

このほどオープンした交流拠点

築百年以上の古民家が 地域の交流拠点に生まれ変わりました

施設は、刻みタバコの生産や木材商として栄えた地元商家「真鍋家」から無償提供を受けた古民家を改修し整備したもので、交流拠点としての様々な機能を持つ施設として再生されました。

四国のへそと呼ばれ、かつて四国の交通の要衝として栄えた「阿波池田」は、昔から多くの人が行きかう交差点でした。四国有数の宿場町だった歴史を今に伝える地域交流拠点施設《真鍋屋》には、移住支援のサービス窓口や仕事や住まいを紹介する「コンシェルジュ機能」。起業・開業など新規事業の立ち上げを支援し、中・短期滞在

交流拠点に持たせた 3つの機能

コンシェルジュ機能

移住支援のサービス窓口を設置。仕事や住まいの紹介などワンストップ支援を行う。

インキュベーション※機能

四国のへそでの移住や起業などの立ち上げを支援。中短期滞在のお試し住宅や貸し事務所機能も備える。

交流協働機能

交流スペース等にて多世代交流をサポートし、飲食スペースにて食による関係人口の増加に取り組む。

※インキュベーション：地方で起業・創業を目指すUターン者に対し施設を提供し支援する機能



人をつなぐ
人がつながる



愛称「MINDE」とは

ロゴマーク上部の黄色は、三好の「三」の三本線と三好の「M」で、三好の山々を表現しています。MINDEは、寄ってみんで、来てみんで、住んでみんで、食べてみんでなどと「ちょっと気軽にしてみない？」と言った前向きでチャレンジ精神の宿る言葉「みんで（MINDE）」を甲子園で活躍した池田高校の野球部ユニフォームのカラーリングで表現しています。

「四国のへそ」に
来訪者と住民をつなぐ
三好市地域交流拠点施設がオープン！

真鍋屋（愛称 **MINDE**）誕生

Uターン支援窓口

スタートアップ支援オフィス環境

お試し暮らし環境

多世代交流のための
カフェレストランや日本酒酒場



池田 JAZZ 横丁 2018

6月2日には「池田 JAZZ 横丁 2018」が行われました。歴史ある建物とジャズの音色が落ち着いた空間を創り出し、来場者はゆったりとした時間を過ごしました。

オープニングセレモニー

6月1日 9時から行われたオープニングセレモニーには多くの人が訪れ、開所を祝いました。



夜の交流スペース：②
 昼は移住相談の場として、夜はゆるやかな交流の場として提供。四国酒まつりなどで知られる「酒処」三好市を市内外に発信します。カウンター席からは、ライトアップされた中庭を望むことができます。
 ●席数カウンター8席 テーブル2席



① 移住者支援窓口

移住を検討している方向けのワンストップ支援窓口

11:00～17:00 予約制



② 酒食処およばれ

地元の酒と肴で旅行者と地元者が楽しく交流する酒場

17:00～22:00



⑤ トライスペース

お店を始めたいなど、チャレンジを応援するスペース

1日レンタル 3500円～



⑥ MINDE キッチン

地元食材を使用した健康ランチ、軽食やカフェが楽しめる

11:00～18:00 席数 40席

みんなのデスク：⑨
 他のスペースと仕切られ、個人が共有で使用できる仕事場や学生の勉強の場としてご利用できます。室内は閉塞感を感じないようガラス張り、有線LANや電源等が使用できます。
 ●料金 1時間100円 1日500円
 ●定休日 火曜

みんなのデスク：⑩
 サークル活動や各種会議など市民の活動を支えるスペースのほか、新たな価値の創出に向けたワークショップなどの場として提供します。プロジェクトやスクリーン、壁面ホワイトボードの利用も可能です。使い方や事例なども施設にて紹介予定です。
 ●席数 20席



なかにわ広場 山と木々の風が吹き抜ける開放的な中庭スペース

施設内には、大きな松や築山、井戸がある中庭をぐるりと囲むように母屋、3つの蔵、別棟がそれぞれ配置され、移住支援・起業創業支援・交流協働の場として利用できます。より円滑な交流や協働を促すよう施設管理者等が次のサービスを実施します。

カフェレストラン：⑥
 地元野菜を使用し、健康をコンセプトにおいた食事などを提供。普段不足しがちな野菜の摂取量を増やすことを目標に、簡単なレシピも提供するほか、食のイベントの開催や同窓会の場としても提供します。



③ お試しオフィス

スタートアップを支援するオフィス環境の提供

オフィス数 3室



④ お試し住居

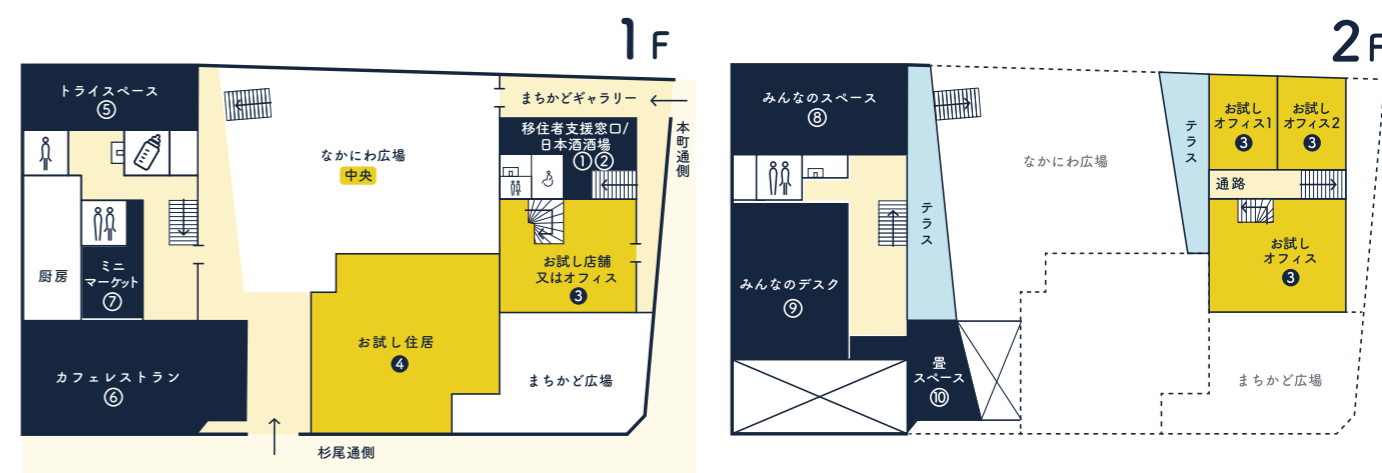
中短期のお試し暮らしのための滞在施設

部屋数 1室 定員 2名まで



お問い合わせ・施設のお申し込み
三好みらい創造推進協議会《指定管理》
 住所：池田町マチ 2226-3-1 電話：080-1993-2000
 ホームページ <http://minde.jp>
 Eメール info@minde.email

三好 MINDE 検索



⑦ ミニマーケット

地元と全国の美味しい食が集まるミニショップ

11:00～18:00



⑧ みんなのスペース

サークル活動や会議など市民活動を支えるスペース

9:00～18:00 1時間 800円/室



⑨ みんなのデスク

仕事場・勉強の場として気軽に支えるスペース

9:00～18:00 席数 13席



⑩ 畳スペース

ママ会等、ちょっとした休憩に

4名席×2室 1時間 600円

世界農業遺産

GIAHS

にし阿波の傾斜地農耕システム

にし阿波の傾斜地農耕システムが日本で11地域目、中四国で初めて世界農業遺産に認定されたことを記念し、5月12日に世界農業遺産認定記念シンポジウムが池田総合体育館で行われ、関係者などが認定を祝いました。世界農業遺産とは？にし阿波の傾斜地農耕システムとは？どのような価値があるのか？ご紹介いたします。



にし阿波の傾斜地農耕システムとは？

県西部の2市2町（美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町）からなるにし阿波地域は、急峻な傾斜地を多く有し、山々の斜面にはつづくように形成された集落、田畑、採草地、里山の美しい景観とそこで営まれる、自然と調和した人々の暮らしは「日本の原風景」とも称されています。にし阿波の傾斜地農耕システムは場所によっては傾斜40度にもなる急傾斜地で、段々畑のような水平面を形成せずに傾斜のまま農耕し、採取したカヤなどの敷き草を畑にすき込むことで、風雨などによる土壌流出を最小限に抑え、そば等の雑穀や伝統野菜に山菜などを組み合わせた少量多品目栽培により、長年にわた

り続けられてきました。この傾斜地農耕が400年以上にもわたって継承されてきたことにより、採草地の多様な動植物や山村景観が保全され、雑穀や伝統野菜などの加工技術や食文化、伝統行事などが人々の手で守られています。

世界農業遺産とは？

社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形作られた農業上の土地利用、伝統的な農業と、それに関わって育まれた文化、地域景観、私物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システムを国連食糧農業機関（FAO）が認定する仕組みです。

世界農業遺産認定までの動き

H29 3月14日 日本農業遺産認定
世界農業遺産認定申請の承認
9月8日 農林水産省を通じてFAOへ申請
11月9日 FAO世界農業遺産科学助言グループ委員による現地調査
H30 3月9日 FAOがにし阿波地域の世界農業遺産認定を公表



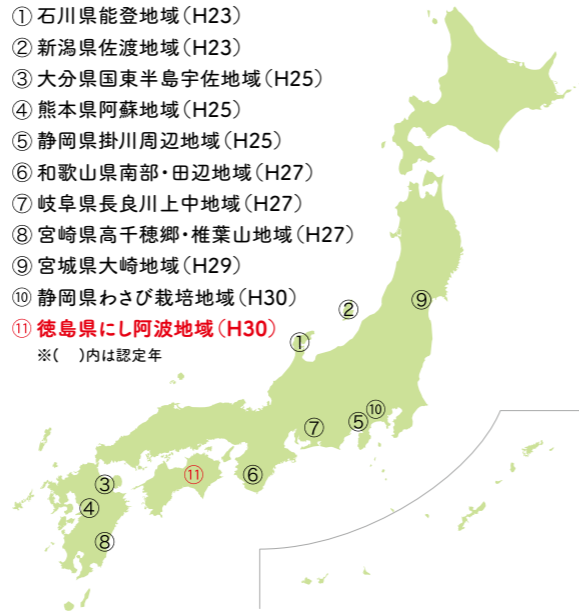
あん・まくどなるど氏（上智大学）による講演

4月19日 GIAHS国際フォーラム（ローマ）にて認定証を授与
これからやるべきこと

この地に暮らす私たちの誇り、そして宝であるこの農業システムは、日本の農業の原点であり、未来に残すべき大変貴重なものとして世界農業遺産に認定されました。私たちは、世界農業遺産認定のこの地を、変化する社会情勢や環境に適応しながら次の世代に継承しなければなりません。そのために農業の担い手を育てるとともに、傾斜地農耕システムを軸とした地域振興、周辺環境の保全など、持続的な発展を目指しています。今後は、この価値を広く共有する仕組みの確立と地域を支える多様な主体の参画が重要となります。

国内では次の11地域が認定されています。

- ① 石川県能登地域 (H23)
 - ② 新潟県佐渡地域 (H23)
 - ③ 大分県国東半島宇佐地域 (H25)
 - ④ 熊本県阿蘇地域 (H25)
 - ⑤ 静岡県掛川周辺地域 (H25)
 - ⑥ 和歌山県南部・田辺地域 (H27)
 - ⑦ 岐阜県長良川上中地域 (H27)
 - ⑧ 宮崎県高千穂郷・椎葉山地域 (H27)
 - ⑨ 宮城県大崎地域 (H29)
 - ⑩ 静岡県わさび栽培地域 (H30)
 - ⑪ 徳島県にし阿波地域 (H30)
- ※()内は認定年



世界農業遺産 5つの認定基準

- ①食料及び生計の保障**
斜面地を傾斜のまま農地として活用し、在来品種の雑穀、野菜、果樹、山菜など、多品種の作物を栽培し複合的農業経営を行っています。
- ②生物多様性と生態系機能**
定期的にかやを採取することで、生息する動植物の多様性を維持しています。また地域固有の雑穀在来品種は、多様な作物の遺伝資源の宝庫となっています。
- ③知識システム及び適応技術**
急傾斜農地ではかやを畑に投入し、土壌流出を抑制します。それでも流出した場合には伝統農具のサラエで土上げをして土壌を守ります。
- ④文化、価値観及び社会組織**
国・県の重要無形民俗文化財指定の雨乞い踊り・農耕関連儀礼や雑穀など地域食材を使った郷土色豊かな食文化が受け継がれています。
- ⑤優れたランドスケープ及び土地と水資源管理の特徴**
急傾斜地集落の住居、石垣、畑、などが創り出す独特な景観は、「日本の原風景」と称され、国内外から多くの観光客が訪れています。

体験プログラムを作ってみませんか

あわこい実施者を募集します

今年は11月23日～2月14日で実施

にし阿波の魅力ある資源を体験プログラムとして磨きあげ、期間限定で観光客や地域住民の皆さま方に提供を行う「あわこい」を2013年冬期より開催しています。



本年度は、11月23日から2月14日までの間で実施いたします。

にし阿波の魅力がたくさん詰まった「あわこい」の開催に向け、プログラムの実施者を広く募集いたします。プログラム実施希望者向け説明会も開催いたしますので、ぜひ、あわこい実施者としてご参加をお願いいたします。

募集締切 7月31日まで

プログラム実施希望者向け研修会

日時 6月25日 14時～

場所 三好市役所 分庁舎会議室

お申し込み・お問い合わせ先

三好市観光課 あわこい担当 ☎72-7620

修学旅行生を受け入れてみませんか

そのの郷 民泊受入研修会

都会からやってくる中高生に、ほんものの田舎体験を感じていただくため、にし阿波2市2町では民泊受入研修会を開催します。「どんな体験をしているの」「どんな料理が良いの」「ひとりでは受け入れが不安」など、さまざまな疑問や不安に専門の講師がお答えし、民泊の魅力をわかりやすく解説します。



初めての方からベテランの方までたくさんの方に参加していただいている研修です。お気軽にご参加ください。

日時 6月27日 14時～16時

場所 三好市保健センター 2階

講師 (株) 体験教育企画代表 藤澤 安良氏
(全国ほんもの体験ネットワーク会長)

内容 民泊の魅力について

お申し込み・お問い合わせ先

一般社団法人 そのの郷 ☎76-0713